

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称	博士 (医 学)	氏 名	佐藤 泰征
	主査	教授	野々村 克也
審査担当者	副査	教授	渥美 達也
	副査	教授	有賀 正
	副査	教授	水上 尚典

学位論文題名

The sequential clinicopathological changes in pediatric patients with IgA nephropathy treated with corticosteroids: An analysis using the Oxford classification

(ステロイド療法を施行した小児期発症 IgA 腎症例における経時的臨床病理学的変化に関する検討: Oxford 国際分類による解析を用いた検討)

申請者は、ステロイド療法を施行した小児 IgA 腎症例における経時的病理変化を明らかにするために、ステロイド療法を施行した小児 IgA 腎症 31 例を対象に治療前後の組織学的所見の変化に関する検討を行った。その結果、「メサンギウム細胞増多スコア」、「管内細胞増多」を有する糸球体の割合、「半月体」を有する糸球体の割合の有意な減少に加え、慢性病変である「分節性硬化や癒着」を有する糸球体の割合の有意な減少が認められた。更に、その経時的病理変化と腎予後との関連を明らかにするための検討を行い、治療前後の経時的病理変化に関する評価が本症のより正確な腎予後予測に寄与する可能性があることを示した。

本研究結果に対して、水上尚典教授より、反復生検を受けることにより患者が受ける利益についての質問がなされた。有賀正教授より、eGFR は年齢により正常範囲が異なるにも関わらず、初回生検、反復生検、最終受診時と比較していることが研究デザインとして正しいかと質問がなされた。渥美達也教授より、反復生検を行った理由および再燃し反復生検を行った症例が含まれるか質問がなされた。野々村克也教授より、今回のコホートのステロイド療法の具体的な内容に関する記載が必要であると指摘され、「間質線維化と尿細管萎縮」と生検間隔の関連に関して質問がなされた。いずれの質問に対しても、申請者は、自らの研究内容と文献的考察を交えて適切に回答した。

この論文は、ステロイド療法を施行した小児 IgA 腎症例において、Oxford 国際分類を用い、その経時的病理変化を明らかにした点、および治療前後の経時的病理変化に関する評価が本症のより正確な腎予後予測に寄与する可能性があることを示した点で高く評価された。

審査員一同は、これらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ申請者が博士(医学)の学位を受けるのに十分な資格を有するものと判定した。